

科技高 いきものの記

Vol.64 2022.11.2

生物教員 佐藤龍平

生物多様性保全工事とは？！

猿江公園の大改修

猿江公園の南側では今年の8月から大規模な環境修繕工事が行われている。残念ながら、**来年の4月頃まで池周辺に一般人は立ち入ることができなくなっている**。この「いきものの記」は、これまで数々のいきものたちとの出会いのドラマを紹介してきたが、そのほとんどは猿江公園南部での出来事である。ほとんど毎日のように訪れていた生物観察コースに入れなくなってしまった…。私はこれから**いったい何を生き甲斐にすればいいのだ？！？！？！**工事計画を聞いてからは、意気消沈してしばし抜け殻状態の日々が続いた。

だが、公園に入れなくなった代わりにじつは今、大変貴重な経験をさせていただいてる。科研部の昆虫班*が猿江公園で生き物調査を行なっていることを伝えたところ、NPO法人ネイチャーリーダー江東のアガさんの粹な取り計らいで、猿江の工事に関わる方々とわれわれ科学技術高校を繋いでくれたのだ。ということで、**なんと工事が始まる前の視察の段階から、生徒とともに現場にお邪魔させてもらっている**。視察では、我々が猿江で見つけた生き物のリストをお渡しし、それらの生物の生息場所と一緒に巡って、「**ここはツチスガリのすみかだから工事の時気を付けてください！**」とか「**ここはヒキガエルの通り道です！**」などと偉そうに指摘させていただいた。工事の人たちからしたら迷惑千万であろう。すでに住民説明会も済んでいるのに、あとから注文をつけてくる最悪なクレーマーだ。にもかかわらず、大変好意的に接していただき、生徒の説明を丁寧に聞いてくれた。さらに、工事が始まってからも**特別に工事中の現場を見せてもらったり**、普通はできない経験をさせてもらっている。

この工事は、生物多様性を保全する目的で行うもので、生き物たちのすみかの確保や外来種の駆除などが行われる。猿江公園には**アカガエルやヒキガエルなど、専門家も驚くような絶滅危惧種が多数生息**していて、そういった生き物たちが今後も生きていける環境を残していくことが望まれている。

とは言っても、生物を守りながら一般人が利用しやすい公園を作るのは大変であろう。今回この貴重な機会を通して、**環境を守るための工事の実態はどんなもので、どのような生物調査が行われているのか、生物を守るためにできることとできないことは何なのか、などを生徒とともに現場で学ばせて**いただいている。

※最近ではカエルや鳥を始め生き物なら何でも調べているので、もはや「昆虫班」ではない。

【工事前の視察】7月21日



猿江公園南部の工事計画図。池周辺を始め、ほとんどの区域が4月まで入れなくなる。

工事会社、環境調査会社、建設局、猿江公園サービスセンター、江東区の環境NPO等の方々が集まる視察に参加させていただいた。昆虫班が調べた生物リストをもとに、工事を行う時にとくに気を付けてもらいたいポイントを指摘させていただいた。

【工事が始まった猿江公園の現場見学】9月30日



特別に工事現場に入れてもらった。



現在の工事の様子をレクチャーしていただく。



柵の下はカエルが通れるように20cmほど隙間を作ってくれていた！



ツチスガリやワスレナグモ（絶滅危惧種）の生息地はコーンを立て、工事関係者も不用意に入らないようにしてくれていた！



アガさんに持って帰ってもらって絶滅危惧種の「ヒキガエル」を撮影。「カエルの研究」を手伝ってもらった。



こちらにも絶滅危惧種の「ニホンアカガエル」。カエルたちを守ることがこの工事の重要な課題だ。



ヨシを伐採して2週間後だそう。すでにヨシだらけ。駆除や整備の難しさを物語っている。